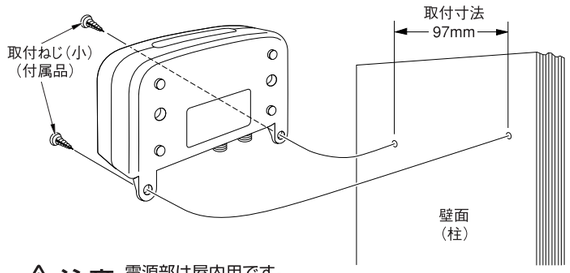
■電源部の取付かた

●壁面取付の場合

付属の取付ねじ（小）2本で固定してください。



⚠注意 電源部は屋内用です。
屋外では使用できません。

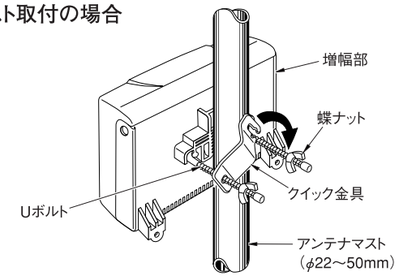
■電源部標準性能表

項目 ＼ 型名	NPS50C
電源（V／W）	AC100（50/60Hz）／10
重畳電源（V／A）	DC15／最大0.5
周波数帯域（MHz）	10～2150
入力・出力インピーダンス（Ω）	75（F型）
挿入損失（dB）	2.5以下
使用温度範囲（℃）	※1　−10～＋40
寸法（mm）	高さ32　幅114　奥行59
質量（g）	210

※1　本体周囲温度

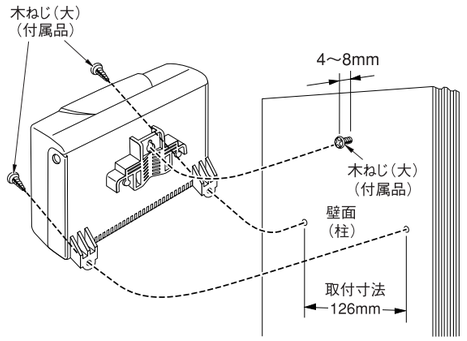
■ブースター（増幅部）の取付かた

●マスト取付の場合



●壁面取付の場合

壁面の表面から4～8mm出るようにして付属の木ねじ（大）をねじ込んでください。本体上部を木ねじ（大）にひっかけて固定してから下部を付属の木ねじ（大）2本で固定してください。



ポイント マスト取付用金具一式は取りはずしてください。

■増幅部標準性能表

項目 ＼ 型名	N-35TU4D			備考
周波数帯域	UHF1		UHF2	
受信チャンネル（ch）	13～22	23	27～33	
利得（dB）	29～38	38～44	29～38	※2
利得調整範囲（dB）	0～−8　※1	0～−8	0～−8	
切換式固定ATT減衰量（dB）	0／−10		0／−10	
定格出力レベル（dBμV）	98（7波）　103（2波）			※3
雑音指数	3～9			※2
適正入力レベル範囲（dBμV）	45～78（7波時）			
入力・出力インピーダンス（Ω）	75			
電圧定在波比	3以下			
重畳電源（V/A）	DC15／0.12			
消費電力（W）	3.0			
使用温度範囲（℃）	−10～＋40			本体周囲温度
寸法（mm）	高さ120.7　幅150　奥行57			
質量（g）	610			

※1 22chは除く。 ※2 中心周波数での値。 ※3 アナログ放送波での規定。デジタル放送波はアナログ放送波に対して−10dBで運用。
●同軸ケーブルの接続は全てF型。
●適正入力レベル範囲はチャンネル数および各チャンネルのレベル差などにより多少異なります。
●適正入力レベル範囲の下限値は、スノーノイズが見えますが、実用になる値です。（アナログ放送波）

お客様窓口専用ダイヤル　(03) 3893-5243　ご利用時間　9:00～18:00（土・日・祝祭日・弊社休業日を除く）

情報通信が仕事です。
日本アンテナ株式会社
本社／〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8 ☎（03）3893-5221（大代）
ホームページアドレス http://www.nippon-antenna.co.jp/

※製品改良のため、仕様、外観の一部を予告なく変更することがあります。

D841013100　平成21年7月

NIPPON ANTENNA

取扱説明書

電源分離型ブースター（特定地域向け）

屋外用 UHF（13～22・23ch／27～33ch）帯域用

MODEL
N-35TU4D

●このたびは、日本アンテナの製品をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。また、正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「安全上のご注意」をごらんください。

"ブースターは正しくお使いください"

●入力端子・出力端子の配線は、取扱説明書にしたがい確実におこなってください。
●入力側と出力側のケーブルは、束ねたりブースターに巻きつけないでください。
●ブースター出力の配線は、同軸ケーブルをご使用ください。
●アンテナマストに取付ける場合はアンテナとブースターは1m以上離してください。

ブースターを正しく取付けないとご自宅やご近所のテレビの写りが悪くなることがあります。

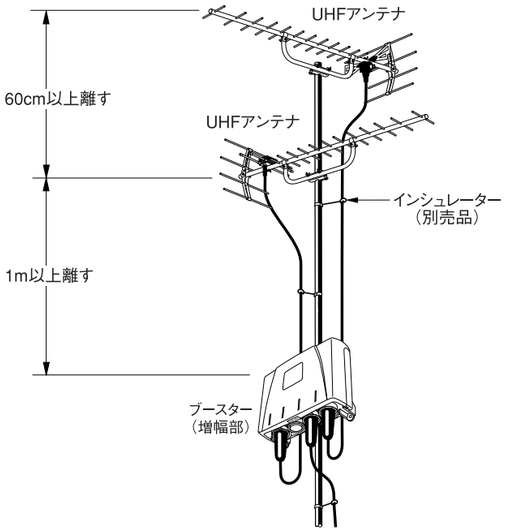
⚠注意

●入力・出力端子のケーブル配線および接続は確実におこなってください。（入力端子・出力端子の接続方法が悪いと画像不良の原因となります。）

ポイント

●コネクターの接続は確実におこなってください。コネクターがゆるんでいると、風によるケーブルの振動などにより、コネクターがはずれることがあります。ケーブルは別売のインシュレーターでしっかり固定してください。

●付属品
- 防水キャップ ……3個
- 5C接栓（リング付）……5個
- 壁面取付木ねじ（大：3本、小：2本）……5本



■特 長

1. **高阻止帯域減衰特性**
本器は13～23chの放送波と27～33chの放送波の混合ブースターです。高阻止量のフィルターを内蔵しておりますので、お互いの電波の影響を受けることなく受信でき、鮮明な画像が得られます。

2. **地上デジタル放送対応**
本器は名古屋地区の地上デジタル放送に対応したブースターです。強い電波のアナログ放送波によるデジタル放送への影響を防止する設計になっておりますので、デジタル放送波、アナログ放送波混在の状況でもアナログ放送波を気にすることなくデジタル放送を受信できます。
また、23chの利得を13～22chの平均利得より約13dB高い特性に設定しておりますので、送信電力の弱い県域デジタル放送（23ch：テレビ愛知）の受信にも有効です。

3. **シールド構造**
増幅部・電源部ともに不要放射を抑えたシールド構造になっておりますので、電波の漏洩や飛込み防止に効果があります。

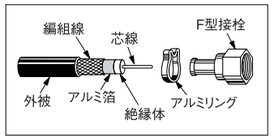
4. **電源部はスイッチングレギュレーター方式**
電源部はスイッチングレギュレーター方式で最大電流容量500mAの電源を採用しております。増幅部への電源供給だけでなくBS・110度CSアンテナを設置する場合も、別売のCS・BS／UV混合器を接続することにより、BS・110度CSアンテナ（コンバーター）に電源を供給できます。また、電源部には過電流保護回路を内蔵しておりますので、増幅部と電源部の間でショートなどの異常が発生した場合でも電源部を保護して故障を回避します。

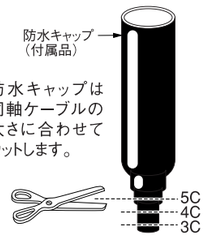
日本アンテナ

■同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法

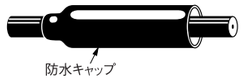
◆用意するもの
カッターまたはナイフ、ハサミまたはニッパー、ペンチ。

■各部の名称

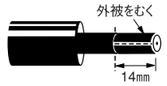




防水キャップは必ず先に同軸ケーブルに通してください。

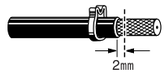


❶ カッター、ナイフなどで点線の部分をカットします。（深さ1㎜程度）



❷ 外被をむき、アルミリングを通しておきます。

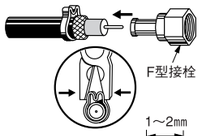
❸ 外被から2㎜程度はなして編組線をていねいに切り落としてください。



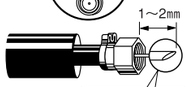
❹ 編組線をめくりあげます。

❺ 編組線から3㎜はなして絶縁体とアルミ箔を同時に切り、抜きとります。

❻ F型接栓をアルミ箔と編組線の間に挿入し、アルミリングをペンチなどでつまんでしっかりつぶしてください。



❼ 芯線の先端は1～2㎜出し、斜めにカットしてください。
芯線が長いと接続端子を破損する場合があります。



芯線は斜めにカットすると挿入しやすい

ポイント

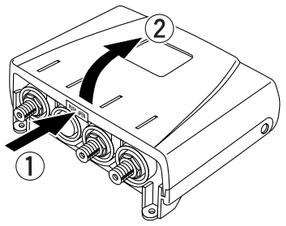
- ●絶縁体をカットするときは芯線をキズつけないように注意し、芯線が編組線とアルミ箔に接触していないかをご確認ください。
- ●芯線に付着物がないか確認し、付着物がある場合は、きれいにとってください。
- ●芯線の外径が1.5mm以下の同軸ケーブルをご使用ください。外径が1.5mmより太い場合は、ピン付接栓をご使用ください。（※同軸ケーブルを取換える場合は、以前使用していた同軸ケーブルと芯線の外径が同じ同軸ケーブルをご使用ください。）

●F型接栓締付トルク　2.0N・m（約20kgf・cm）

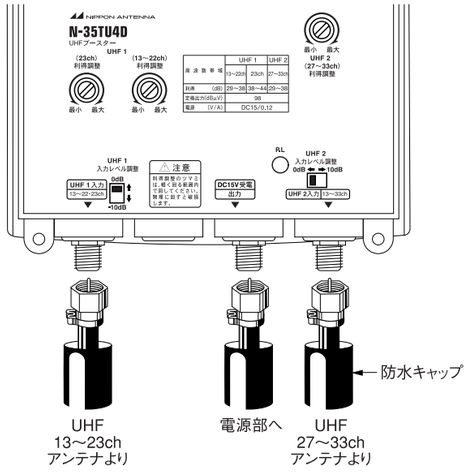
⚠注意
加工の際、切りくずの扱いや工具の使用には十分注意してください。思わぬケガの原因となります。

■増幅部の接続方法

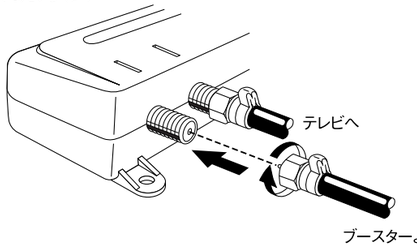
●ケースの開けかた



“PUSH”文字部を指で押して、カバーを本体に対して直角程度まで開くとストッパーで固定されます。
レベルなどの調整が完了したら、カバーをしっかり閉めてください。



■電源部の接続方法



⚠注意

- ●ブースターへの接続やテレビへの接続、CS・BS/UV分波器などの接続は確実におこなってください。故障の原因になります。
- ●電源部とブースター（増幅部）の間で万一ショートしている場合、電源部保護回路が働き、ブースターは動作しません。電源プラグを電源コンセントから抜いて、配線などを点検してください。

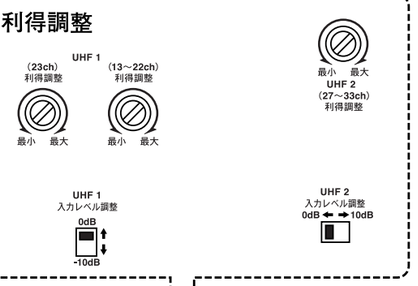
⚠注意

- ●電源部の設置場所はテレビの上などの風通しの良い、目の届く位置に設置してください。押入や天井裏などの見えない場所や、水のかかる所、湿気の多い所はさけてください。
- ●電源部の上には可燃性の物をのせないようにご注意ください。
- ●長時間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

■使用例および接続方法

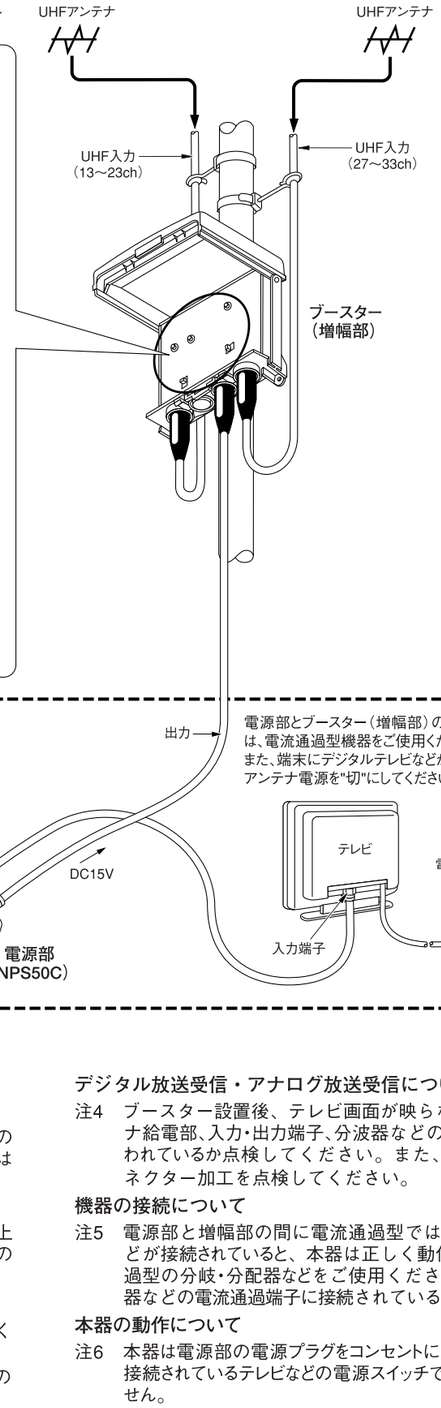
⚠注意　●ブースター端子、テレビ端子への接続は絶対まちがえないよう注意してください。故障の原因になります。

●利得調整



- ●テレビ電波が強すぎてアナログ放送のテレビ画面にシマ模様が出る場合は、ATTを操作するか、利得調整ツマミを“最小”方向へ回し、鮮明な画像になるように調整してください。デジタル放送のテレビ画面が映らなかったり（ブラックアウト）、モザイク状のノイズ（ブロックノイズ）がでている場合も、利得調整ツマミとATTで最良画像が得られるように調整してください。
- ●UHF1、UHF2のうち片方の電波が強すぎる場合、本器の構成上別系統の受信に影響を与えることがあります。この場合、利得調整ツマミを“最小”方向へ回すかATTを操作して強い電波を弱め、影響がなくなるまで調整します。
- ●回路構成上UHF1（23ch）の利得調整をおこなうと22chの利得も変化します。また、UHF1（13～22ch）の利得調整をおこなうと23chの利得も数dB変化します。最終的にすべてのチャンネルが良好に受信できていることをご確認ください。

●使用例



●入力・出力端子などの接続は確実におこなってください。

■使用上の注意

デジタル放送受信について

●「アンテナレベル※」について
デジタルテレビなどの「アンテナレベル」の数値はアンテナの設置方向を確認する際の目安です。電波の強さを表すものではないため、本器を使用しても大きくなるとは限りません。
※ 名称はメーカーによって異なります。

注1　ブースター設置後、テレビ画面が映らなかったり、画面上にブロックノイズ（モザイク状の雑音）が出る場合は、以下の項目をご確認（調整して）ください。

ーテレビ（チューナー）への入力レベルが低い場合ー
- ●地上デジタル放送受信の場合は受信エリアをご確認ください。
- ●アンテナの位置、方向および高さなどを変えて、最良の画像が得られるように調整してください。

ーテレビ（チューナー）への入力レベルが高い場合ー
- ●ブースターの利得調整ツマミを最小方向へ回して、最良の画像が得られるように調整してください。

注2　デジタル放送受信は、電波が弱く所要C/Nが得られないとブロックノイズ（モザイク状の雑音）が出る場合があります。

アナログ放送受信について

注3　ブースター設置後、テレビ画面にスノーノイズ（ザラザラ画面）や自動車などによる雑音、その他雑音が出る場合はアンテナ設置の位置、方向および高さなどを変えて最良の画像が得られるように調整してください。

デジタル放送受信・アナログ放送受信について

注4　ブースター設置後、テレビ画面が映らない場合は、アンテナ給電部、入力・出力端子、分波器などの接続が確実におこなわれているか点検してください。また、同軸ケーブルのコネクター加工を点検してください。

機器の接続について

注5　電源部と増幅部の間に電流通過型ではない分岐・分配器などが接続されていると、本器は正しく動作しません。電流通過型の分岐・分配器などをご使用ください。また、分岐・分配器などの電流通過端子に接続されているかご確認ください。

本器の動作について

注6　本器は電源部の電源プラグをコンセントに差込むと動作します。接続されているテレビなどの電源スイッチでは“入”“切”できません。

電源部について

注7　電源プラグを電源コンセントに接続してもパイロットランプが点灯しない場合は、電源部と増幅部の間でショートなどの異常が発生して過電流保護回路が動作しております。電源プラグを電源コンセントから抜いて電源部と増幅部の間の配線などを点検してください。

注8　電源部はこのブースター専用です。他の電源部を使用することはできません。

注9　電源部は少し温かくなりますが、これは電子部品の放熱作用によるもので異常ではありません。